

内信 かゆら版

昨年の今頃は、すでに数苗トンのコイの被害がでていました。今年は、早くから酸素量が低下し危険な状態が何回もありました。幸にも好条件がかなって被害も最少に止まって来ました。また7月20日頃から非常に良好な水質になっていたために、今年は、ひまわりとアオコ、何事もなく過ぎ、秋を送るものではないかと思われました。しかし、つゆあけとともに植物プランクトンが繁殖しはじめ再び、酸素量の低下が著しくなっています。さらに降雨量や日射量は昨年にくらぶ有利で

すが、かすみ、雨の水を見ると危険信号がいくつかみられます。

1 プランクトン
透明度が低下し高崎では0.25mに達しています。その内容を見ますとアナバナがかなり多くみられます。

アオコ	500
アバナ	1350
ネドク	450
クロシ	200
コシ	250
高崎	7月31日
	mg/cc

昨年はクロステリウムアバナーアオコレオシラトリアの順にプランクトンが変り、水変りをかこしました。今年もアバナが優占して来たことからアバナーアオコへの変化がある心配があるわけです。

2. 酸素量

すでに述べて述べた通りで常に低値が見られましたが、表では逆に異常に高い値が見られます。左表に酸素飽和度を示しました。かなり高い値がみられ、高域入ではとくに著しく、昨年と同じ傾向が見られます。

	8月4日	表尺
余田	296	%
理理	352	
崎崎	160	
浪浪	135	
高田	163	
三和	165	

以上のようなおとら、今に到ってもなお安んずることができないのです。これまではプランクトンの増殖にありましたが、これが卵、餌料化その他いろいろ問題が枯れはじめの頃が一番心配されます。今後の観測速報に注目して下さい。

3. シンキョの種苗生産

これまで、この魚種をまわりたいものはなしていません。やむを得ない形こそマクロミドですが、味はごちもゆいゆいです。しかし、めずかしいです。アオコや水草を喰ってしまいます。莫大量のマオコが、シンキョにめわり、コイのエサにまわれは、アバナ、ミナミの両者が解決するのですが、今年、は利根川で採捕された、50万粒の卵が内木町の池で成長してしまっています。人工採餌料化、その他いろいろ問題があります。種苗生産の技術は、あつてありません。

